

# 令和5年度 研究計画

## 1 研究主題

自ら学ぶ子どもの育成  
～ICTの活用による授業づくりを通して～

## 2 研究主題の設定について

令和3年度から県の「ICTを活用した授業改善支援事業」に指定され、今年度が最終年度になる。学びの場でICTを活用することが当たり前ようになってきている。

昨年度までは、「進んで学習する子どもの育成」を研究主題とし、1年目は算数を中心として研究を進め、2年目は、算数科以外の教科等でも実践を重ねてきた。ICTを効果的に活用した学習過程「船一スタンダード」を作成し、さらに教科毎の詳しいICTの活用の仕方も作成したことで、教師の意識改革につながった。子どもも学び方を覚えたことで、子ども主体の授業づくりにつながった。学習内容によって教師も子どもも効果的にICTを使い分けると答えた割合が93.4%と9割を超えた。ICTだけに頼らずに、自分に合った方法を選択することができる子どもは89.1%と多かった。

しかし、低学年や中学年では、手書き入力の文字制限があるので、昨年度まではTeamsを使うことができず、教師の指示で一斉に端末を活用したり、協働的な学びを行ったりすることが多かった。

今年度は指定の最終年度ではあるが、子どもたちがより主体的に学習を進めることができるように、研究主題を見直し、「自ら学ぶ子どもの育成」に改めた。自分のタイミングで必要なときに必要な友達と協働的な学びをし、いつでも何度でも学習の途中で友達の考えと比較・検討できる子どもの育成を目指していきたい。そのためには、柔軟な学習過程を工夫する必要があると考える。

「自分の考えをもつ場面」と「学び合う場面」を合わせて「問題解決の場面」と捉え、個別最適な学びと協働的な学びの中から一人一人が自分に合った学びを選択して追究し、自分のタイミングでいつでも個別最適な学びと協働的な学びを往還することができるような学習過程を展開するために、今年度はクラウド版のスマイルネクストを新たに活用することにした。クラウド版を導入することで、子どもたちが処理する情報量が多くなるが、複線型の授業が可能になる。また、学校での学びと家庭での学びを結び付けることで、子どもの資質・能力の一層の向上を図ることもできる。家庭でも興味・関心や学習の進度に応じた学びを実現できるように、タブレットPCの持ち帰りを自分のタイミングで行うことも可能になる。

今年度は、「船一スタンダード」を見直し、子どもが自分のタイミングで主体的に学習を進めることができるように工夫していきたい。教師がICTを効果的に活用できる場を設定するのではなく、各教科等の学習の進め方を子どもが理解し、子どもが学習方法や形態等を選択しながら学習を進めることができるような学習過程を工夫し、理解を深めていきたい。

## 3 「自ら学ぶ子どもの育成」とは

○学び方を学び、子ども自身が、学習が最適となるように調整する

ICTを活用して子どもが学習方法や形態等を選択して、自分のタイミングでいつでも何度でも個別最適な学びと協働的な学びを往還できる。学習が自分にとって最適となるように自ら調整しながら、課題を解決していく。

○クラウドを活用した協働的な学びで、考えを深める

クラウドを活用して、自分のタイミングで既習の学習内容や既存の情報と比較したり、友達の考えと比べたりしながら、自分の考えを深めていく。

#### 4 主体的・対話的で深い学びの視点から期待する子どもの姿

- 問題を解決する方向性について見通しをもち、粘り強く学習に取り組み、自分の学習活動を振り返って次につなげる子ども（主体的な学び）
- 自分にとって最適なタイミングで友達と学び合い、考えを深め合う子ども（対話的な学び）
- 各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識や情報等を関連付けてより深く理解したり、新たな考えを形成したり、問題を見いだしたりして解決する子ども（深い学び）

#### 5 研究仮説

「主体的・対話的で深い学びの視点」からの授業改善の中で、子どもが学習方法や形態等を選択し、自分のタイミングで「個別最適な学び」と「協働的な学び」を往還することにより、自ら学ぶ子どもの育成につながり、学習が深まるだろう。

#### 6 検証方法

- (1) 諸調査やアンケートの結果から子どもの変容（成果と課題）を捉える。
- (2) 授業研究会等で見いだした子どもの姿から子どもの成長を捉え、評価する。
- (3) 情報活用能力の到達目標（本校作成）を設定し、評価する。

#### 7 研究の重点（授業改善の重点）

- (1) 主体的な学びの視点から…
  - ・ 学習方法や形態等を選択する場の工夫
  - ・ 各教科等の学びの進め方の工夫
  - ・ 次につなげる振り返りの手立ての工夫
- (2) 対話的な学びの視点から…
  - ・ クラウドを活用した個別最適な学びと協働的な学びを往還できる学習過程の工夫
  - ・ 子どもが、自分にとって友達と学び合う最適なタイミングであると気付くような支援の工夫
- (3) 深い学びの視点から……………
  - ・ 資質・能力を焦点化した単元構成の工夫
  - ・ 子どもが自分の考えを再構築する場の工夫

#### 8 研究推進の方法

- ・ 計画的な全体研修会により、教職員の指導力の向上、指導方法の工夫、教材開発等について研修する。
- ・ 県の「ICTを活用した授業改善事業」のモデル校（研究指定校）として、市教委及び県教委からの指導・助言を仰ぐ。
- ・ 長期休業ごとに各自の実践の成果と課題をまとめ、検証改善を行う。
- ・ 市内各校より教科の専門性を有する教員を教科協力員として要請し、研究体制の強化を図るとともに、研究通信を配布し、本校の取組を各校に周知することができるようにする。